営農経済部からのお知らせ

いよいよ田植え時期を迎えます

営農支援課　TAC
堀井　崇史

間もなく田植えのシーズンが始まります。
田植え前の重要な作業となる代かきの**ポイント**について
まとめましたので参考にして下さい

代かきの目的

(1) 元肥を混和し、田んぼをならして**均平**にする。
(2) 適度に砕土して**苗の活着を早める**。
(3) 泥を細かくし、田んぼに溜めた**水が漏れないよう**にする。
(4) **雑草が生えてくることを抑制**する。
(5) **除草剤の効果を高める**。

田んぼが平らなことは、田植え後の水管理がしやすくなり、稲の生育にとって、大変重要な条件です。
代かきが充分でないと水持ちが悪くなりますが、やりすぎると土が固まりやすくなり、水や酸素が通りにくく表面の根張りが悪くなるので注意が必要です。

代かきの日程

代かきは1度だけではなく、2度3度と行うのが一般的です。まず大まかに耕し(荒代)、次に丁寧に仕上げ(本代)ています。代かきの回数は、田んぼがどれだけ荒れているかによって決まります。
1回目の代かき(荒代)は、田植えの3日前から1週間前です。
2回目の代かき(本代)は、田植えの2～3日前ぐらいです。
代かきの日は田植えの日からさかのぼって決めます。あまり早く代かきを済ませてしまうと、田植えまでに雑草が生えたり、土が硬くなってしまいます。

浅水代かきがおすすめ

代かきに適した水の量は、表面の8割が土で、残り2割が水に浸かっているぐらいです。
理由は次の通りです。

(1) 表面が確認しやすく、代かきを均一にできる
(2) 肥料や除草剤が田の外に流出しにくい
(3) ワラなどの水に浮きやすいものでも土中に沈めることができる
(4) 水が少なくて済む

◆ 望ましい代かき

土壌の表面5cm程だけがトロトロで、その下層はゴロゴロした土の塊があるような土壌を理想とします。縦浸透の1日当たりの減水深が20～30mmのとき、米の収量は一番多いといわれています。地上部の葉や茎よりも、地下部の根の張り具合が収量に大きく影響することを物語っています。

●LINE 公式アカウント「営農タイムリー」でも
旬な営農情報を随時発信中!!　登録はこちらから→